

1. 各事業についての評価、今後の方向性等の提言

項目	評価、提言等
ふじえだマナーについて	<p>○はままつマナーは、浜松駅の地下道等にも、はままつマナーの広報が貼ってあったりマナーそのものも貼ってあったりした。</p> <p>○お母さん達が情報に錯綜されている。お母さんが自分の子育てを見直し、もっと楽に、自分の価値観と違うものも見ながら豊かな子育てができるようになるという。</p> <p>○えだっ子の一步がどれだけ普及しているか。健診時や健診での読み聞かせの説明時、母子手帳を貰う時、幼稚園の保護者会等に説明したらどうか。小中学校での普及についても、保護者会の総会等で説明したらどうか。</p> <p>○学校で時間がとりにくいなら朝の会や帰りの会にちょっとずつ進めていけばどうか。</p> <p>○人間関係が幸せになったり豊かになるためのふじえだマナーなので、小学生版の作成にあたっては、ふじえだマナーを子ども同士や親子で語ることでコミュニケーションのよい機会にしてもらうために、学校側からもどう話し合うかを家庭等に働き掛けるような工夫をしていけばどうか。</p> <p>○広島避難場所ですべての子どもが大人に伝えるためのマナー新聞を作っていた。もしかすると、大人が目線のマナーは子どもには窮屈で使い勝手が悪いんじゃないか。ふじえだマナーや全ての教育に子どもが参加していないが、子どもにその力が無いと思っているのは大人が目線であって、子どもは必要なマナーを知っているのではないか。</p> <p>○「当たり前前」のことが「当たり前」って、大人ができていない。一番難しいのは大人の意識改革。大人が意識や発想、行動のイノベーションをやっていないと「出る釘は打たれる」的な考えにとらわれ、自ら考え工夫し切り開いていく、創造力、問題解決力は身につかない。先生には常に意識改革や教育改革を求められている。</p>
発達支援事業について	<p>○早期発見早期支援について、発達の可能性が高いところを、お宅の子は障害かもしれないと言ふことにより、親は落ち込み鬱になり全然笑顔のない子育てをした方が、早期発見早期支援をマイナスにしてしまう。乳幼児期の早期発見早期支援は誰のためにしているのか、そういう定義・概念をしっかりとやって、藤枝方式、親子セット型のシステムをぜひ慎重にしてほしい。</p>
プレイパークについて	<p>○子ども達のバランス能力、運動神経が少し鈍いと感じている。いろんな運動をすることで運動能力を高めることを考えると、公園に行けば自然と遊ぶことができる環境があればいいのではないか。</p> <p>○公園に（危なくないような）バスケットのゴールを置いたらどうか。</p>

	<p>○イベント的にやるではなく、1個の公園にいろんな特質、特徴があって、藤枝市にある公園全てでプレイパーク全部の機能を持つようにできないか。</p> <p>○未来を生き抜くために必要な創造力、感性、問題解決力、思いやり、道徳性を育てるには子どもを自由にすること。“3つの間＝＜自由な空間、自由な時間、仲間＞” 大人が用意した空間、用意した遊びを、大人の手の中の平の中でやっても、たくましい力は付いてこない。</p> <p>○大人を頼らずに子ども達だけで遊ぶことができなくなっている。幼児期からいろんな遊びを自分たちで考えていくという力をつけていく必要がある。</p> <p>○県知事の言う学力の高い子は、遊び呆けて集中力を高める体験をしなければダメ。藤枝的なプレイパークの概念を考えていただくといい。乳幼児期は体と心が一緒なので、プレイパークの中にもっと深く子どもの発達を捉えて、体を使って仲間と一緒に自然を使って遊び切ってほしい。</p> <p>○年間限られた日数の中で、藤枝市の子ども達が何人くらい参加できるのかと思うと、学校単位でも自治会単位でも、こういう場ができるだけ増えていくといい。</p> <p>○プレイパークの精神からすれば、好きに遊ぶのを何で行政から言われてやらなければならないのかという感がある。</p> <p>○子どもが興味・関心を持つ遊びを保証して意欲と自発性と自立を育てることは、好き勝手にやらせるのとは違う。人としての育ちが力になる。</p>
不登校について	○沼津市内のある学校では不登校の子どもを対象とした特徴ある教育をしており、生徒が全国からたくさん集まっている。子ども達はみんな生き生きとしている。
放課後子ども教室について	○居住地校交流も年1回くらいしか出来ない中で、障害児の放課後デイサービスに健常者の子どもクラブが相乗りするようなことができるといい。
事業の担い手（ボランティア等）について	<p>○ボランティアとかコーディネーター、担い手とか市民団体とか、行政の職員でなく一緒にやる市民が足りないという話が出ている。もっとボトムアップ、やらせてあげたい人達が提供するのが自然な流れ。関心を持つ大人の育成を重点的にして、実際に動く市民を育成して、市民たちが動くようにしてもらいたい。</p> <p>○コーディネーターとかボランティアがたくさん必要なら養成講座をどんどん開いたらどうか。</p> <p>○団塊の世代の退職者の経験、得意分野を活かして、地域でボランティアとか活動できる人を募集したり、自然教室などを専門としている市内の有識者や、自然教室と一緒にされるキャンプに参加したことのある子ども達等をボランティア活動に参画させられるのでは。</p>
幼児教育の充実	<p>○家庭内やお母さん同士のつながりが希薄になっている。人との関わり方を教えるには、子育てコンシェルジュによる保護者の支援や、周りの子育て経験者が相談にのるということも大事。</p> <p>○小さな頃から本物（の美術等）を見せたり、公私の区別をつけなければならないような場に出るとするのが大事。</p> <p>○幼稚園とか保育園で「スポーツ保育」に取り組めばどうか。磐田の幼稚園や保育園は月2～3回、大学で授業を受けている。</p>

	○物語の絵本の読み聞かせでは、科学系と物語系の絵本は育てる部分が違うということを押さえて、親たちには物語系の本を中心に読んでほしいと伝えている。こういうものと体を使って遊ぶような体験により、心と体のバランスが整えられる。
--	--

2. 意見・感想等

項目	意見・感想
スマホやゲームについて	<p>○ゲームを長くやって、やる気がなくなってしまう人が増えていて、先日も報道で、学校現場でも相当学力の差が出てきていると言っていた。今はスマホ等の問題がクローズアップされているが、小さい時からゲーム漬けになっていることについてはあまり言われなくなってしまった気がする。</p> <p>○携帯電話、ゲームによる弊害が、身体的にも心の面でも、不登校もこういうことに関係してくるのではないか。どこかでこれを制限する取組みが報道されていたが、携帯電話や無料通信アプリを使う時間、ゲームやテレビを見る時間とか、市を挙げて運動を起こしていくことも大事ではないか。</p> <p>○スマホやゲーム等を、意味を理解してコントロールできていれば問題はないと思う。そのためには、小さいころの絵本の読み聞かせや体を使って遊ぶような体験が、バランス良くされていることが重要ではないか。</p>
その他	<p>○スマイルキッズタウン事業では、子ども達同士で考えさせる、大人は指図命令をせず、子ども達の中で起きた喧嘩も子ども達に解決させて乗り越えさせる。子ども達も自分で解決するを経験し、力をつけていく。大人も大人が教えない教育を学ぶことができる。</p> <p>○日本語は人をほめる言葉や感動する言葉が多く、韓国語・中国語はけなす言葉や悪口が多い、と聞いた。小さい時からの言葉の教育が重要だと思う。</p> <p>○行政は縦割りを排除するような仕組みづくりや予算取りを主にお願したい。 (放課後子ども教室と児童クラブ、学校サポーターズクラブとコミュニティースクール等、目的が似通った事業)</p> <p>○ネットで子どものコーナーを作って、それぞれの課でやっていることを一目で分かるようにしてほしい。</p>